

横浜詩人会通信



2015.1.1

No.293

横浜詩人会事務局

横浜市西区境之谷 30-19 油本方 TEL045-516-3182

発行人 中上哲夫(会長)

横浜市鶴見区馬場 7-28-15-1

<http://yokohamasijinkai.web.fc2.com/>

「水を飲む子ども」が告げるもの

宗田とも子

芽吹く植物の柔らかさも受け止められず、仕事や対人関係、途切れることのない諸事に身体のかなかの流れが乾ききってしまった頃があった。

こんな時に画家「松本竣介」の自画像「立てる像」に美術館で出会ったのだ。すつくと立ち遠いなざしの先にあるものに魅かれだしてから十数年になる。

昭和17年作成のこの絵画は、多くの芸術家が戦争賛美をうたうなか困難な時代に描かれた作品である。この閉塞した時代に人間を描いているのだ。人物像は黒い作業着に裸足でサンダルを履き大地に足を踏み締めている。

ためらいが満ちてはいるのだが、なにかに立ちほだかる意志力が迷いなくあり岐路に立たされた時代のその先を見つめさせるのだ。

この褐色の風景のなかに清涼感の漂う人物の遠い視線にわたしは希望を見たのだ。その背景には広い乳白色の空が覆い、不自然なほど小さい建物や橋が描かれる。

そして人物像の見つめる先の何か強く託すものが描かれていた。

それは昭和18年作成の「水を飲む子ども」だ。子どもが大きい薄いコップを両手に抱えて口を付けている。おぼつかない指が真剣に支えている。時代はさらにきびしさを増し薄い光さえ見えなくなっていく。親でさえ子どもの明日を保障したくても力の及ばない日々が横たわる。

「水を飲む子ども」は作者がその時代もつとも守らねばならぬいものを描いたのだ。子どもだけではなく未来への望みを託したのだ。幼くても命を持つ自分を守っているのだ。しなやかな希望を抱えているのだ。

わたしが日々接する子どもは陽ざしを浴びながらたくさんの水を飲む。丸い小さな手を添えて息継ぎも惜しむように水を飲む、命を大きくするために。

幼い子どもとはいえ、自分が抱える器は両手で支える、容易に離したりはしない、獲得してき

た言葉や愛らしさで自分の意志を主張してくる。

そしてわたしは、子ども等のように強く大切にささげ持つものを抱えているかと突きつけられる。

望みを注ぐ清潔な器を抱え、時に大切なひと達に差し出せるのかと。ゆるがず無心で立てるのかと。

形式になった言葉のやり取りをし、淵に潜み溝に紛れたものを見えているのに見ようとしくなっていないかと。平和といわれるあやうい日々のなかに毎日報道される戦闘地での負傷する子どもの姿、

がれきの前にほうぜんとする人々。過ぎていくだけの日常は、自動改札、ATM、買物さえ無言が続く。

街は行き交うひとであふれている。監視カメラにさらされながらわたしの言葉がかじかんでいる。

こんな日には、すれ違ったままのひとと、もつとも守りたいものを指先を温めてそれぞれの器を満たしていきたいと思う。そして遠い問いかけを噛みしめるのです。

流されず葉裏の哀しみを直視しているのかと。

今日を越える寂しさを背負って、おぼつかないままでも大切に器を抱えて詩を書いているのかと。

抱えて詩を書いているのかと。

第46回横浜詩人会賞授賞式開催される

受賞者 阿部はるみさん

2014年10月12日(日)午後2時より、横浜・桜木町のブリーズベイホテル4Fにおいて、第46回横浜詩人会賞の授賞式および祝賀パーティが開催されました。

前半の授賞式では、油本達夫理事長の司会のもと、中上哲夫会長の挨拶から始まり、続いて佐川亜紀選考委員長の選考経過・結果報告がありました。「幻の木の実」の授賞が報告されると、会場は大きな拍手に包まれました。

年、一緒に活動してきた人ならでのあたたかい紹介でした。引き続き授賞に移り、横浜詩人会は中上会長から賞状と賞金、神奈川新聞社からは丸山孝文化部長から賞金が手渡されました。さらに友人たちからの花束贈呈が続き、会場は華やかな雰囲気になりました。

最後に受賞者・阿部さんのお礼の言葉があり、厳粛な中にもなごやかさのある授賞式は、滞りなく終了しました。



佐川亜紀選考委員長

受賞者紹介は、阿部さんが所属する詩誌「アル」の代表でもある西村富枝理事。控えめな性格ながら芯の強さを感じさせると、長



中上会長による賞状の朗読

会場整備のため、いったん休憩に入ったあと、祝賀パーティへと移行しました。司会は西村富枝・服部剛両理事による「母子」コンビ。すっかり定着した感のある二人です。



祝賀パーティ司会 西村・服部両理事

来賓のご挨拶は、神奈川新聞社の丸山文化部長、神奈川近代文学館の澤茂樹事務局長よりいただきました。乾杯は平林敏彦氏。

選考委員によるスピーチは佐川選考委員長を除いて、新井知次、黒岩隆、坂多瑩子、柴田千晶、菅野真砂の各選考委員。さらに参加



来賓のご挨拶 神奈川新聞社 丸山文化部長



来賓のご挨拶 神奈川近代文学館 澤事務局長

当日の参加者(敬称略)

- 来賓
 - 神奈川新聞社文化部長 丸山孝
 - 神奈川近代文学館 澤茂樹
- 受賞者 阿部はるみ
- 横浜詩人会会員
 - 油本達夫 新井知次 荒船健次
 - 今泉協子 うめだけん さく 荻悦子
 - 方喰あい子 川端進 黒岩隆
 - 小林妙子 坂多瑩子 佐川亜紀
 - 柴田千晶 下川敬明 進藤友佳
 - 菅野真砂 富永たか子 中上哲夫
 - 西村富枝 服部剛 平林敏彦
 - 日野零 細野豊 水野るり子
 - 村山精二 山田玲子
- 受賞者友人等
 - 青野忍 関谷淑子 鈴木千枝子
 - 荒木三千代 平田せつ子



受賞者 阿部はるみさん



平林敏彦さん 乾杯前のスピーチ



なごやかなパーティ会場

(文・写真) 村山精二

者によるスピーチが続き、阿部さんの受賞をみんな喜んでいるという印象を強く受けました。